

提供書目的項目 (JAHIS 調査)	
コード	コード内容
01	診察(外来入院の区別なし)
02	診療、外来、受診依頼 (外来)
03	治療
04	治療・観察
05	経過観察
06	入院、受診依頼(入院)
07	入院治療を要する
08	診療および検査
09	検査
10	精査・診断
11	精査、検査依頼 (精査)
12	手術、手術依頼
13	手術・治療を要する
14	転医
15	リハビリ
16	セカンドオピニオン
17	分娩予約
18	急性期リハ
19	回復期リハ
20	維持期リハ
21	返事
22	依頼理由
23	栄養相談
24	その他

検査依頼時に確認する項目 (JAHIS 調査)	
過去に内視鏡検査を受けた	腎機能 Cr ( ) BUN ( )
キシロカインのアレルギー	妊娠もしくは妊娠の可能性
抗コリン剤の使用	生理開始予定日
グルカゴンの使用	
生検の実施	体内金属→(13)へ
抗凝固剤服用	
感染症	
具体的な病名	<その他、事例を参照方>
30分静止できる	
喘息・重篤な腎機能紹介	

検査依頼時に確認する項目-体内金属の項目 (JAHIS 調査)	
体内常時性金属	人工内耳
脳内クリップ	磁石で固定した義歯
心ペースメーカークリップ類 (動脈瘤)	その他の手術や外傷による体内金属(通常の義歯や胃術後のペッツは大丈夫です)
カテーテル類及び連結管類	
人工弁	<その他、事例を参照方>
義眼	
人工関節	
歯科矯正	
ワイヤー	
プレート類	

日本 HL7 協会 関連 OID (案)			
OID	識別 ID/コード体系	発行者	登録者
2.16.840.1.113883.2.2	HL7 Japan ルート		
2.16.840.1.113883.2.2.4	(外部識別 ID)		
2.16.840.1.113883.2.2.4.1	JAHIS 保健医療福祉情報システム工業会		
2.16.840.1.113883.2.2.4.2	HELICS 医療情報標準化推進協議会		
2.16.840.1.113883.2.2.4.3	MEDIS-DC (財)医療情報システム開発センター		
2.16.840.1.113883.2.2.4.4	JIRA (社)日本画像医療システム工業会		
2.16.840.1.113883.2.2.4.20	MERIT-9		
2.16.840.1.113883.2.2.4.21	MedXML		
2.16.840.1.113883.2.2.4.22	ORCA		
	ID 発行機関 oid (病院 ID、代表組織 ID、施設 ID) (文書管理番号、オーダ管理番号) (医師 ID、患者 ID)		
2.16.840.1.113883.2.2.4.100	行政機関		
2.16.840.1.113883.2.2.4.101	医療施設		
2.16.840.1.113883.2.2.4.102	RHIO (地域医療情報組織)		
2.16.840.1.113883.2.2.4.103	健康保険機関		
2.16.840.1.113883.2.2.5	(内部コードセット)		
2.16.840.1.113883.2.2.5.1	HL7V2.x 用		
2.16.840.1.113883.2.2.5.2	HL7V3 用		
2.16.840.1.113883.2.2.5.3	HL7V3CDAR2 用		
2.16.840.1.113883.2.2.6	(外部コードセット)		
2.16.840.1.113883.2.2.6.1	JAHIS		
2.16.840.1.113883.2.2.6.2	HELICS		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3	MEDIC-DC		
2.16.840.1.113883.2.2.6.4	JIRA : DICOM		
2.16.840.1.113883.2.2.6.5	JIRA : IHE-J		
2.16.840.1.113883.2.2.6.6	MERIT-9		
2.16.840.1.113883.2.2.6.7	MedXML		
2.16.840.1.113883.2.2.6.8	ORCA		
2.16.840.1.113883.2.2.6.100.1	行政機関：施設種別コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.100.2	行政機関：都道府県コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.101	医療施設：医療機関番号		
2.16.840.1.113883.2.2.6.102	RHIO (地域医療情報組織) コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.103	健康保険機関コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1	MEDIS-DC : J-MIX 電子保存された診療録情報の交換のためのデータ項目セット		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.1	MEDIS-DC : J-MIX : T0029 情報情報提供目的区分		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.2	MEDIS-DC : J-MIX : T0001 性別区分		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.3	MEDIS-DC : J-MIX : C0002 続柄コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.4	MEDIS-DC : J-MIX : T0043 根拠区分		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.5	MEDIS-DC : J-MIX : T0053 合併症区分		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.1.6	MEDIS-DC : J-MIX : T0048 輸血製剤種別区分		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.2	MEDIS-DC : ICD10 対応電子カルテ用標準病名マスター		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.3	MEDIS-DC : J LAC10 (臨床検査項目分類コード)	日本臨床検査 医学会	
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.4.1	MEDIS-DC : HOT 7 標準医薬品コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.4.2	MEDIS-DC : HOT 9 標準医薬品コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.4.3	MEDIS-DC : HOT 11 標準医薬品コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.3.4.4	MEDIS-DC : HOT 13 標準医薬品コード		
2.16.840.1.113883.2.2.6.6.1	MERIT-9 : 処方オーダ単位略号 (MR9P)		
2.16.840.1.113883.2.2.6.8.1	ORCA : レセ電 診療科コード		

ID 及びコード体系 OID (案)			
OID/UUID	識別 ID/コード体系	発行者	登録者
2.16.840.1.113883.5.1	HL7-Administratiive Gender		
2.16.840.1.113883.5.112	HL7-Adminstration Route		
2.16.840.1.113883.12.128	HL7-Allergry Severity		
2.16.840.1.113883.5.25	HL7-Confidentiality Code		
2.16.840.1.113883.3.933	HL7-Clinical document/Related Document ID		
2.16.840.1.113883.5.1001	HL7-ActMood		
	HL7-Personal Relationship Role Type		
	HL7-Allergy Type		
	HL7-Act Encounter Code		
2.16.840.1.113883.5.1011	HL7-Telecommunication Address Use		
2.16.840.1.113883.5.143	HL7-URLSchema		
	Urgency		
	PIN: Medication Frequency		
	PIN: Medication Dose Unit		
2.16.2	ISO Country Code		
	薬剤適用を表す code の oid		
	輸血実施事由を表す code の oid		
	輸血特記事項を表す code の oid		
2.16.840.1.113883.6.2	ICD9		
2.16.840.1.113883.6.3	ICD10		
2.16.840.1.113883.6.1	LOINC		
2.16.840.1.113883.6.5	SNOMED		
	BCCDC Immunization Codes		

地域医療施設 OID 例 (案)			
OID	識別 ID/コード体系	発行者	登録者
2.16.840.1.113883.2.2.4.100.22	静岡県		
2.16.840.1.113883.2.2.4.100.22.1	静岡市		
2.16.840.1.113883.2.2.4.100.22.2	浜松市		
2.16.840.1.113883.2.2.4.100.22.3			
2.16.840.1.113883.2.2.4.101.22.1	浜松医科大学		
2.16.840.1.113883.2.2.4.101.22.2			
2.16.840.1.113883.2.2.4.101.22.3			

## 【資料 2】

HIS, RIS, PACS

-モダリティ間 予約, 会計, 照射録情報  
連携 指針

バージョン 3.0 (JJ1017 指針 Ver. 3.0)

HIS, RIS, PACS – モダリティ間  
予約, 会計, 照射録情報連携 指針  
バージョン 3.0  
(JJ1017 指針 Ver 3.0)

日本画像医療システム工業会 (JIRA)  
保健医療福祉情報システム工業会 (JAHIS)

2005年10月5日

目 次

1. まえがき .....	4
2. 適用範囲 .....	55
3. 引用規格 .....	66
3.1. DICOM 規格(2004年版) .....	66
3.2. 参考文献 .....	66
4. 属性タグの利用 .....	77
4.1. プロトコル符号シーケンス .....	77
4.2. プロトコル符号シーケンスの例 .....	77
4.3. 照射線量シーケンスに関する補足 .....	88
5. コード運用 .....	99
5.1. コード作成の方針 .....	99
5.2. 既存コード、ローカル拡張コードの利用 .....	1010
5.3. 手技コード部 .....	1111
5.3.1. 手技(モダリティ、大分類、小分類、手技拡張)部の解説 .....	1111
5.3.2. 手技コードの拡張方法 .....	1212
5.4. 部位コードの解説 .....	1313
5.4.1. 部位コードの構造 .....	1313
5.4.2. 部位コードの JJ10107-16M への利用方法 .....	1414
5.4.3. 部位コードの拡張方法 .....	1414
5.5. 姿勢・撮影方向コード部の解説 .....	1515
5.5.1. 姿勢・撮影方向コードの構造 .....	1515
5.5.2. 姿勢・撮影方向コード部の拡張方法 .....	1515
5.6. 撮影条件等の詳細指示コード部 .....	1616
5.6.1. 撮影条件等の詳細指示コード部の解説 .....	1616
5.6.2. 撮影条件等の詳細指示コード部の拡張方法 .....	1616
5.7. 超音波コード部 .....	1717
5.7.1. 超音波画像モード部の解説 .....	1717
5.7.2. 超音波コード部の拡張方法 .....	1717
5.8. 代表的頻用コード .....	1818
6. 日本語の使用 .....	1919
7. 版管理と今後の体制 .....	2020
8. JJ1017 委員会委員名簿 (ver. 1.0~ver. 2.0、所属は 2003 年 3 月 31 日現在) ....	2121
9. JJ1017 委員会委員名簿 (ver. 3.0) .....	2222

別表目次

別表 A.1	手技:大分類(部品)
別表 A.2	手技:小分類(部品)
別表 B	部位コード(JJ1017P) 一覧
別表 C	部位コード(部品)
別表 D	姿勢・撮影方向コード(部品)
別表 E.1	詳細体位(部品)
別表 E.2	特殊指示(部品)
別表 E.3	核種(部品)
別表 F	頻用コード(JJ1017-32)一覧

## 1. まえがき

JJ1017 指針は、DICOM 規格における「予約情報」および「検査実施情報」の利用指針である。今や医療の分野にあつて最も典型的なスタンダードとなった DICOM 規格の国際的な位置づけを尊重しつつ、日本の医療機関における実際の運用に即した取り決めの必要性に鑑みて、2001 年に最初の版がリリースされ、2003 年には改訂して Ver 2.0 が策定された。

JJ1017 指針 Ver 3.0 は、このようにして誕生した JJ1017 指針の利便性、網羅性を更に向上させ、医療機関への実装を促進されることを強く願ってデザインされた。あたかも、医療情報の標準化の必要性が社会的にも認知され、また医療機関にあつても情報資源の有効な保持のために標準化が必須であるとする考えが一層浸透してきている。この時宜を得て、DICOM のみならず HL7、IHE-J 等の標準化技術との整合性を確保した本指針の意義は深く、またその担う責は大きい。

JJ1017 指針 Ver 3.0 においては、従来の 16 バイトコードの制約を外し、16 バイトコードの繰り返しを採用した。これにより、放射線検査をオーダする医師の詳細な指示を忠実に反映できると考えている。具体的には、手技、部位、体位等の三軸の変数を任意に組み合わせ可能なコード構造とし、あらゆる撮影指示に対応することを可能にした。同時に、委員会が策定したコード値では不足だと考えるユーザに対して、特定の規則に基づいた独自の拡張ができる仕組みを明示的に取り入れた体裁になっている。委員会として提示するコード値自体も、使用するユーザからのご要望を反映して改訂していく予定をしている。

なお、2005 年 2 月の IHE-J のコネクタソンにおいて、このコード構造を用いた実証が行われたため、問題なく運用できることが確認できていることを附言しておく。

さらに、この指針の中で作られる「一般的頻用コード」を使用して、レセプト電算処理コードとしてまとめる仕事が（財）医療情報システム開発センター（MEDIS・DC）によって進められている。

本指針 Ver 3.0 の作業においては、これまでと同様、保健医療福祉情報システム工業会と（社）日本画像医療システム工業会の委員派遣を受けて浜松医大の木村を長として組織した JJ1017 委員会を中心に、高知高須病院 倉西先生、大阪大学 祐延先生、慶應大学 安藤先生、東京大学 奥先生、東京大学 渡辺先生が参加している。日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本医療情報学会の諸兄からの貴重なご意見を頂戴したのも従前と同じである。日本放射線技術学会では JJ1017 委員会への派遣委員である岡崎市民病院 奥田先生、埼玉医大 松田先生に特に多くの作業を分担して戴いた。

多大なご尽力をいただいた諸先生方、両工業会に改めて深く感謝申し上げるとともに、改訂を経た本指針によって、いよいよ日本における HIS、RIS、PACS-Modality 間の情報連携が飛躍的に進捗する様子を体感することこそが我々の大きな望みである。

（浜松医科大学 木村通男）



## 2. 適用範囲

画像検査オーダー情報は、通常、まず病院情報システム(HIS)から入力され、放射線部システム(RIS)で予約の取りまとめなどがあり、そこからモダリティに配信されると考えられる。ただし、日本の場合は病院情報システムと放射線部システムとが米国ほど分化していないことも多く、また予約の取りまとめ、検査の適応調整などをするかしないかは、各々の施設の運用によって異なる。

ここで定めるものは、DICOM規格の利用のための指針であり、モダリティとRIS間の情報伝送において用いられるべきである。オーダー系とRISの間は、HL7などの規格を用いることが望ましいが、ここでは指針を示さない。

また、その際のユースケースであるが、モダリティコンソールの周りにHISの端末があることは前提としない。つまり、オーダーに関する情報も、モダリティコンソール上で確認できるべきである。従って、オーダー詳細についてもMWLを用いて、モダリティに伝えられるべきである。

同様に、実施情報は、モダリティで発生し、RISに伝えられ、そこからHISなどの医事系に会計情報として流れ、あるいは照射録情報のように、RISで管理されるものもある。

先と同様に、ここで定めるものは、DICOM規格の利用のための指針であり、モダリティとRIS間の情報伝送において用いられるべきである。医事系とRISの間は、HL7などの規格を用いることが望ましいが、ここでは指針を示さない。

本指針の主たる内容は、4. 属性タグの利用および5. コード運用に大別されており、既存のオーダーコードなどを利用する場合には、前者の利用だけに適合することが認められる。但しその場合には、部分的な適合である事を明確にすることを願いたい。

### 3. 引用規格

#### 3.1. DICOM 規格 (2004 年版)

##### MWL

PS 3.4 付属書 K

PS 3.3 付属書 C.4.10, C.4.11, C.4.12, C.3.1, C.3.2, C.3.3, C.3.4, C.2.1, C.2.2, C.2.3,  
C.2.4, C.12.1

##### MPPS

PS 3.4 付属書 F.7

PS 3.3 付属書 B.17, C.4.13, C.4.14, C.4.15, C.4.16, C.4.17, C.12.1

##### 全般

PS 3.17 付属書 B

PS 3.17 付属書 J

#### 3.2. 参考文献

- ① 富山医科薬科大学附属病院画像検査項目コード
- ② 大阪大学医学部附属病院画像検査項目コード
- ③ 藤田保健衛生大学診療行為コード
- ④ 生体検査報酬に関する外保連試案[第2版] – 平成14年10月
- ⑤ 岡崎市民病院放射線部門コード (2005年)
- ⑥ 埼玉医科大学総合医療センター画像診断マスターコード (2005年)
- ⑦ IHE Technical Framework Rev 5.5 (HIMSS & RSNA)
- ⑧ 放射線データ交換規約 Ver 1.1 (JAHIS)
- ⑨ IHE 入門 (篠原出版新社)

## 4. 属性タグの利用

本指針の Ver 3.0 を以って、MWL, MPPS, および画像情報オブジェクトのサービスクラスに対する属性タグの利用指針を廃止する。

以下は、プロトコル符号シーケンスと照射線量シーケンスの利用法に関する解説である。

### 4.1. プロトコル符号シーケンス

JJ1017 指針 Ver 1.0 および 1.1 では、予約済みプロトコル符号シーケンス(0040,0008)、および、実施済みプロトコル符号シーケンス(0040,0260)の複数アイテムを用いて検査内容(JJ1017T)、対象部位(JJ1017P)、および、撮影方向(JJ1017D)を平面的に繰り返す事としていた。また、Ver 2.0 では、プロトコル符号シーケンスに複合コード(JJ1017C)の使用を想定していた。

その後、国際的な DICOM 委員会での検討により(補正提案: cp326 参照)、プロトコル コンテキストシーケンス(0040,0440)、および、コンテンツ アイテム 修飾シーケンス(0040,0441)が導入された。予約済みプロトコル符号シーケンス(0040,0008)、または、実施済みプロトコル符号シーケンス(0040,0260)の符号シーケンスには、後述のコード運用に従い JJ1017-16M で識別される画像検査コードの主部を設定する。また、JJ1017-16S で識別される画像検査コードの副部を、プロトコル コンテキスト シーケンス(0040,0440)を用いて伝達する。ただし、JJ1017 指針 Ver 3.0 では、プロトコル コンテキスト シーケンス(0040,0440)の使用はオプションである。また、プロトコル コンテキスト 修飾シーケンスは使用しない

### 4.2. プロトコル符号シーケンスの例

プロトコル符号シーケンスには、JJ1017-16M で識別される画像検査コードを設定し、プロトコル コンテキスト シーケンス(0040,0440)には JJ1017-16S で識別される撮影条件を記述する。以下の例において、1つの画像検査コード(主部)に対して、1以下の撮影条件コード(副部)が伴う。これを単位として、プロトコル符号シーケンスの中に複数の画像検査コードを伝達する事は差し支えない。

表 4.1 プロトコル符号シーケンスの例

タグ	属性名	値の例
(0040,0008)	予約済みプロトコル符号シーケンス	-
>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-
>(0008,0100)	符号値	1000000200010200
>(0008,0102)	符号系名	JJ1017-16M
>(0008,0103)	符号系版	3.0
>(0008,0104)	符号意味	胸部.X線単純撮影.立位正面(A→P)
>(0040,0440)	プロトコル コンテキスト シーケンス	-
>>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-
>>(0040,A040)	値タイプ	CODE
>>(0040,A043)	概念名-符号シーケンス	-
>>>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-

>>>(0008,0100)	符号値	123015 (DICOM への補正提案で変更される可能性がある)
>>>(0008,0102)	符号系名	DCM
>>>(0008,0104)	符号意味	撮影条件
>>(0040,A168)	概念符号シーケンス	-
>>>(0008,0100)	符号値	0000010000000000
>>>(0008,0102)	符号系名	JJ1017-16S
>>>(0008,0103)	符号系版	3.0
>>>(0008,0104)	符号意味	X線
>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-
>(0008,0100)	符号値	1000000200010600
>(0008,0102)	符号系名	JJ1017-16M
>(0008,0103)	符号系版	3.0
>(0008,0104)	符号意味	胸部. X線単純撮影. 立位側面(L→R)
>(0040,0440)	プロトコル コンテキスト シーケンス	-
>>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-
>>(0040,A040)	値タイプ	CODE
>>(0040,A043)	概念名・符号シーケンス	-
>>>(FFFE,E000)	アイテムタグ	-
>>>(0008,0100)	符号値	123015 (DICOM への補正提案で変更される可能性がある)
>>>(0008,0102)	符号系名	DCM
>>>(0008,0104)	符号意味	撮影条件
>>(0040,A168)	概念符号シーケンス	-
>>>(0008,0100)	符号値	0000010000000000
>>>(0008,0102)	符号系名	JJ1017-16S
>>>(0008,0103)	符号系版	3.0
>>>(0008,0104)	符号意味	X線

#### 4.3. 照射線量シーケンスに関する補足

MPPS の照射線量モジュールの撮影線量シーケンス(0040,030E)は、以下の通りに利用する。

照射モード(0018,115A)には、一般撮影にあつては PULSED を設定し、シネ撮影、透視、パルス透視などにあつては CONTINUOUS を設定する。PULSED を設定する場合には、その管電圧(0018,0060)にはピーク値を記載し、CONTINUOUS を設定する場合には、その管電圧(0018,0060)には一連の検査における平均値を記載する。さらに、X線管電流  $\mu\text{A}$ (0018,8151)の値は  $\mu\text{A}$  単位となっているが、ユーザとのインターフェースは mA 単位で提示する。

## 5. コード運用

### 5.1. コード作成の方針

情報伝送規格が有意義なものになるためには、データの文法とともに、そこで用いられるコード、用語が共通のものであることが望ましい。そのため、DICOM 規格にも数多くのコード、用語テーブルが記載されている。

日本における、画像検査関係の情報と、アメリカのそれとを比較した場合、検査オーダ内容が、より詳細にわたる事が多い。そのため、検査依頼などのために DICOM 規格が用意したコード、用語テーブルの内容では、日本での運用に十分に対応できない。一方で、全国共通の、画像検査用詳細コードを作成する試みも過去にはなされてきたが、画像機器の進歩が早く、制定そのものが困難であった。だからといって、これをローカルコードに任せたのでは、せっかくの規格のメリットが半減するだけでなく、今後は、画像検査部門での各種データ解析が重要性を増すことが予想され、施設間比較などに支障を来す可能性がある。

そこで、本指針では、手技（モダリティ、大分類、小分類、手技拡張）、部位（小部位、左右等）、姿勢等（姿勢・体位・撮影方向）について、共通語となる基本分類をコードとして作成し、その組み合わせとしてそれぞれの撮影に対応するコードを生成できるようにした。これにより、組み合わせとして作成されるコードは、検査の実施に必須な情報を保有している 16 桁の主部（JJ1017-16M）となる。

同様に、撮影条件等の詳細指示（撮影体位、特殊指示、核種）、超音波（超音波モード）についても、共通語となる基本分類をコードとして作成し、その組み合わせとしてそれぞれの撮影に対応するコードを生成できるようにした。これにより、組み合わせとして作成されるコードは、検査の実施に付加的な情報を保有している 16 桁の副部（JJ1017-16S）となる。JJ1017 委員会予約部分は、共通の拡張領域として確保されている。

JJ1017 の画像検査オーダコードは、Ver 1, 2 と Ver 3 では異なっている。Ver 3 の画像検査コードの構造は、表 5.1 の通り 32 バイトの構造をもつ。

表 5.1 画像検査コードの構造

JJ1017-16M

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
手技コード部							部位コード部				姿勢・撮影方向		拡張(汎用)		
Mod	大分類		小分類		拡張(手技)		小部位			左右等	姿勢体位	撮影方向			

JJ1017-16S

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
撮影条件等の詳細指示部						超音波				JJ1017 委員会予約					
詳細体位		特殊指示		核種		画像モード									

HIS-RIS 間の HL7 での交換では、これを JJ1017-32 と称する 32 バイト固定長コードとして一括で伝達する。一方、DICOM のコード長は最大 16 バイトに制限されているので、前半部の JJ1017-16M を予約済み/実施済みプロトコル符号シーケンス(0040,0008/0260)の符号値(0008,0100)に設定し、後半部の JJ1017-16S をプロトコル コンテキスト シーケンス(0040,0440)の値部分となる概念 符号シーケンス(0040,A168)の符号値(0008,0100)に設定する。ここで、プロトコル コンテキスト シーケンスの使用はオプションとするので、運用にあたっては、MWL の SCU であるモダリティ、MWL および MPPS の SCP が共通の仕様を採用している事を確認する必要がある。同時に、プロトコル コンテキスト シーケンスは 2004 年版 DICOM の正式な規格の一部となっているので、対応する装置が増える事が望ましい。

JJ1017 のコード体系の概要は以上の通りであるが、コードを利用する施設の便に供するため、多くの施設で用いられると思われる代表的なコードを集めたものを「代表的頻用コード集」として作成した。これについての解説は 5.8 に記載されている。このコード集を用いることにより、必ずしも施設においてコード生成の作業をすることなく、本コード体系を用いたマスタ作成が可能になる。

5.2. 既存コード、ローカル拡張コードの利用

詳細は撮影コードを構成する各コード要素の紹介に譲るが、従来の版よりも網羅性を増したといえ、本指針だけですべての撮影法に対するコードを生成できるようになっているとは考えていない。しかしながら、本指針の構造によって、大部分の撮影法については拡張フィールドを有効に用いることにより、ローカルに作成することができる。施設における拡張の作業にあたっては、本指針の基礎となる考え方に沿ったものであることがユーザにとって有益であると考えている。

また、オーダ画面で表示された、文字列としてのオーダ内容も、同時に、コード意味(文字列)を用いて送ることも推奨される。これにより、オーダ発行者の意図がより正確に、受け手に伝わり、またコードを同一にしない相手とでも、人間が読めば判る、という意味で情報伝達可能となるからである。

符号化系指定子には通常、「JJ1017-16M」, 「JJ1017-16S」といったものが入るが、こういった拡張をおこなった場合には、「JJ1017-16M/HMUV2」のように、「/」の後に任意の文字列を続け、その拡張

をおこなった施設の識別をおこなう。「/」の後は施設名、バージョン番号などをユーザ側で自由に設定することができる。

すでにローカルに用いられているコードを用いることは、差し支えないが、その際の符号化系指定子には、「L/HMU」のように、Lでローカルコードであること、「/」以下の文字列で施設等の識別をおこなう。そのローカルコードのみでなく、文字列としてのオーダ内容も、同時に、コード意味（文字列）(0008,0104)を用いて送ることが推奨される。

いずれにせよ、各施設において一般性があると考えられる拡張をおこなった場合には、どちらかの工業会を通じて JJ1017 委員会にご報告いただきたい。それにより、新しいモダリティや検査法などに対応して共通語たる新たな発番することができる。

### 5.3. 手技コード部

放射線部門の検査コードや手技コードについては、残念ながらまだ標準として広く採用されているものが存在しない。作成者の立場や使用目的により施設毎に様々なものが作成され、HIS や RIS や PACS やモダリティではそれをマスタとしてシステム内に設定している。

DICOM では(0008,0060)にモダリティコードが定義されているが、日本では検査依頼の詳細度が高いので、本指針の Ver 3 ではモダリティコードを含む下位の「手技コード部」を再編した。手技コード部は、モダリティに英数字 1 文字、手技（大分類）、手技（小分類）および手技拡張にそれぞれ英数字 2 文字を使用し、それを順に並べたコード表記とする。

#### 5.3.1. 手技（モダリティ、大分類、小分類、手技拡張）部の解説

##### ① モダリティ

DICOM に定義されているモダリティコードを網羅するとともに、現実の検査依頼状況を考慮してモダリティを分類した。Ver 1 と 2 ではモダリティコードは英大文字 2 字であらわされていたが、Ver 3 より 1 桁の数字(不足する場合英大文字を使用可能)で表すこととする。表 5.2 は、モダリティコードの対応である。

表 5.2 モダリティコードの対応

JJ1017 指針 バージョン	X線 単純撮 影	X線 透視・造 影	X線血 管撮影	X線断 層撮影	X線 骨塩定 量	X線 CT検査	MRI 検査	核医学 検査	超音波 検査
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1および2	GX	GX	XA	GX	GX	CT	MR	NM	US

##### ② 手技（大分類）

モダリティ毎に主な検査や治療の種別を分類した。大分類に「NOS (Not Otherwise Specified)」を定

義し、小分類で特に指定することがない場合を想定した。

同種のモダリティ毎に検査の大まかな分類を表す。Ver 3 では、モダリティを横断的に大分類を定義しており、数字および I と O を除く英大文字の使用を可能とする。施設ごとに拡張可能な大分類コードの範囲は A0 以降とする。

手技（大分類）の実コードは別表 A.1 にある。

### ③ 手技（小分類）

手技（大分類）で分類した検査や治療の種別を詳細化する、あるいは手技の表現に使用出来る分類レベルとした。Ver 3 では、数字および I と O を除く英大文字の使用を可能とする。施設ごとに拡張可能な大分類コードの範囲は A0 以降とする。

手技（小分類）の実コードは別表 A.2 にある。

### ④ 手技拡張

本指針で具体的に定義する手技（大分類）および手技（小分類）等の組み合わせでは表現できないような施設独自の手技についてローカルに拡張できるように準備されている。画像検査コードの細分類が必要な場合に施設で定義して使用する。Ver 3 では、数字および I と O を除く英大文字 2 桁の使用を可能とする。本指針では、コードは定義しない。

## 5.3.2. 手技コードの拡張方法

モダリティコードのユーザによる拡張は、英大文字 1 字で P 以降 Y までを使用する。

手技（大分類）コードの拡張は、コード表記の 2 番目のフィールドにおいて、「A0」以降を使用する。手技（小分類）コードの拡張も同様に、コード表記の 3 番目のフィールドにおいて、「A0」以降を使用する。これらの組み合わせによっても表現できないようなコードの細分化を行う場合は、手技拡張領域を用いて「01」以降をユーザで任意に定義する。

拡張や細分化を行った場合の符号化系指定子は、「JJ1017-16M」と拡張を行った施設の略称を、スラッシュ「/」で結合する。例えば、浜松医科大学での拡張は、「JJ1017-16M/HMU」などとする。



## 5.4. 部位コードの解説

部位コードについても、手技コード同様、まだ標準として広く採用されているものが存在しない。また、“SNOMED-DICOM Subset”においては、部位コードが 909 語記載されているが、検査依頼の詳細度の高い日本においては、残念ながら使用に耐えるものではなかった。そこで、本委員会では実際に日本の病院で運用されている画像検査項目コードから部位情報を取り出し、部位コードを作成した。

本指針における部位コードは、大部位(2桁)、臓器系部位(1桁)、小部位(3桁)から構成される 6桁のコードであり、それぞれピリオド「.」で接続して、コード値とする(別表B)。大部位コード、および、臓器系部位コードを有することにより、コード意味の理解が容易であること、および、各施設における拡張が容易であることを特徴としている。部位コードの符号化系指定子は「JJ1017P」とし、別表Bに示す独立のコードとして使用することができる。その際、コード意味は小部位コードに対応する記述を使用する。

## 5.4.1. 部位コードの構造

## ① 大部位コード(表5.3)

撮影(検査)範囲を大まかに表現するものであり、フィルムに投影される身体部位を意図している。単に「胸部」「腹部」というだけでなく、実運用を考慮し、複数部位を表現する「胸腹部」などが定義されている。

## ② 臓器系部位コード(表5.4)

撮影(検査)対象となる臓器を、器官系統別に表現したものである。

表 5.3 大部位コード

コード意味	コード値
全身	10
躯幹部一般	20
胸部	25
胸腹部	30
腹部	35
腹部骨盤部	40
骨盤部	45
頭部顔面	55
頭頸部	60
頸部	65
上肢	75
四肢	80
下肢	85
特定できず(NOS)	00

表 5.4 臓器系部位コード

コード意味	コード値
実質臓器一般	1
骨格系	3
心血管系	4
消化器系	5
呼吸器系	6
泌尿器生殖器系	7
特定できず(NOS)	0

## ③ 小部位コード (別表 C)

実際の部位コードであり、構造を持たせず、単に符号化したものである。Ver 3 の小部位は、Ver 1 に比べて約 150 部位が追加されている。

## ④ 左右コード

小部位だけでは検査対象の部位を確定できない場合がある事が指摘され、Ver 3 でいくつかの区分を加えた。この領域は、モダリティ、手技 (大分類) および手技 (小分類) で決められる撮影法について、左右あるいは両側、頭側あるいは尾側、および、前側あるいは後側、全体を決めるものである。表 5.5 に示すものとなる。

表 5.5 左右など

部位区分	指定なし	両側	右側	左側	頭側	足側	前側	後側	全体
コード	0	B	R	L	H	F	A	P	W

## 5.4.2. 部位コードの JJ10107-16M への利用方法

部位コードに示される「小部位コード」、「左右コード」を組み合わせることにより表 5-1 に示される JJ1017-16M の「部位コード部」を形成する。実コードは、別表 C にある。

## 5.4.3. 部位コードの拡張方法

大部位コード、および、臓器系部位コードの拡張は不要と思われる。小部位コードのユーザによる拡張は、「A00」以降を使用する。左右などコードの拡張は、ユーザにおいては必要ないと考えている。

拡張や細分化を行った部位コードを独立に使用する場合の符号化系指定子は、「JJ1017P」と拡張を行った施設の略称を、スラッシュ「/」で結合する。例えば、浜松医科大学での拡張は、「JJ1017P/HMU」などとする。

## 5.5. 姿勢・撮影方向コード部の解説

## 5.5.1. 姿勢・撮影方向コードの構造

## ① 姿勢体位

撮影時の体位の指定が必要なことが指摘され、Ver 3 から表 5.6 の姿勢体位コードとする。

表 5.6 姿勢体位

姿勢	指定なし	立位	仰臥位	腹臥位	側臥位	右側臥位	左側臥位	座位	半座位	倒立位
コード	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

## ② 撮影方向

Ver 2 までの撮影方向は不十分であった為、約束撮影を含めて大幅に強化された。実コードは、別表 D にある。

## 5.5.2. 姿勢・撮影方向コード部の拡張方法

姿勢体位コードのユーザによる拡張は、「A」以降を使用する。

撮影方向コードの拡張は、「A0」以降を使用する。

## 5.6. 撮影条件等の詳細指示コード部

### 5.6.1. 撮影条件等の詳細指示コード部の解説

#### ① 詳細体位

Ver 3 で新しく導入された体位の詳細であり、外反位、内反位、外転位、内転位、外旋位、内旋位、前屈位、後屈位、開口時、閉口時などを指定する。実コードは、別表 E.1 にある。

#### ② 特殊指示

Ver 3 で新しく導入された撮影指示の詳細であり、ステレオ撮影、Wkg の荷重で撮影、ア音発声時に撮影などの指示を行なう。実コードは、別表 E.2 にある。

#### ③ 核種

核医学検査時に使用する放射性薬剤や、放射線治療における放射線の種類やエネルギーを指定する。実コードは、別表 E.3 にある。

### 5.6.2 撮影条件等の詳細指示コード部の拡張方法

詳細体位コードのユーザによる拡張は、「A0」以降を使用する。

特殊指示コードのユーザによる拡張は、「A0」以降を使用する。

核種コードのユーザによる拡張は、「A0」以降を使用する。